

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 押江 隆
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
教育相談の基本的な理論や技法について説明でき、教育相談の観点から教育現場で生じる事象について思考・判断でき、この領域への関心と適切な態度をとり、基本的な技法を用いることができるようになることが目標である。			
授業の概要			
学校における教育相談のあり方について、理論や事例、各種技法の演習等を通して学ぶ。			
授業計画			
第1回：教育相談の意義と必要性			
第2回：教育相談と臨床心理学(1) 精神分析と教育相談			
第3回：教育相談と臨床心理学(2) 精神分析およびパーソン・センタード・セラピーと教育相談			
第4回：教育相談と臨床心理学(3) パーソン・センタード・セラピーおよび認知行動療法と教育相談			
第5回：教育相談と臨床心理学(4) 認知行動療法と教育相談			
第6回：学校現場の問題(1) 不登校			
第7回：学校現場の問題(2) いじめ			
第8回：学校現場の問題(3) 発達障害			
第9回：教育相談とエンカウンター・グループ			
第10回：教育相談のシステムと地域との連携			
第11回：校内の相談システムと専門職との連携			
第12回：教育相談とカウンセリング(1) カウンセリングの技法			
第13回：教育相談とカウンセリング(2) トライアルカウンセリング			
第14回：教育相談とカウンセリング(3) トライアルカウンセリングのスーパービジョン			
第15回：生成され続ける教育相談			
定期試験			
テキスト			
『現場で役立つ教育相談入門：子どもたちの幸せのために』春日由美・五十嵐亮著、北樹出版			

参考書・参考資料等
『明日から教壇に立つ人のための教育心理・教育相談』田邊敏明・大石英史・沖林洋平・小野史典・押江隆著、北大路書房
学生に対する評価
レポート（20％）、期末試験（80％）

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 尾川 満宏
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
進路指導・キャリア教育の現場において、児童・生徒への対応の基礎となる知識と態度を身につける。			
授業の到達目標			
1 進路指導・キャリア教育の考え方や、教育活動上の機能について説明できる。（知識・理解）			
2 現代的な進路形成・キャリア発達上の課題について、現状を分析し対策を説明できる。（思考・判断・表現）			
3 積極的に他者と議論し、教育実践の改善・高度化をめざす態度を形成する（関心・意欲・態度）			
授業の概要			
本授業科目では進路指導・キャリア教育の実践の基盤となる知識と理解、態度を獲得する。そのため、授業前半では進路指導・キャリア教育の意義と原理を学ぶとともに、多様な実践形態があることについて理解を深める。授業後半では、具体的な教育実践における進路指導・キャリア教育の進め方について、グループワーク等を行いながら検討する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：進路指導・キャリア教育の考え方			
第2回：進路指導・キャリア教育の意義・方法原理・位置づけ			
第3回：計画的・組織的にすすめる進路指導・キャリア教育			
第4回：生徒一人一人の発達と課題により進路指導・キャリア教育			
第5回：学校段階間の接続と関係機関との連携をふまえた進路指導・キャリア教育			
第6回：学級経営のなかのキャリア教育			
第7回：進路指導・キャリア教育の実践構想1（指導計画の立案）			
第8回：進路指導・キャリア教育の実践構想2（指導計画の改善）			
定期試験 なし			

テキスト 文部科学省『高等学校版 キャリア教育の手引き』
参考書・参考資料等 授業内で紹介する文献等を適宜参考にすること。
学生に対する評価 授業参画の程度（50％）、期末課題（50％）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)		単位数：2単位		教科担当教員：畔津 忠博、吉永 敦征、 阿部 真育 教職担当教員：甲原 定房、吉岡 一志	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数15人、情報 (15名) のグループにて実施する。					
教員の連携・協力体制					
教職に関する科目の専任教員及び教科に関する科目の専任教員が中心となって開講する。また、現職の管理職および現職・退職教員を招聘した模擬授業、高大連携提携校におけるフィールドワークを行う。					
授業のテーマ及び到達目標					
4 年間を通しての学部、教職課程の学修を、履修カルテを元に振り返り、教職の様々な側面に関する理解を深める。同時に自らの学習活動そのものを振り返り、これからの人生に教職課程での学修をどのように活かすかの展望を持つ。					
授業の概要					
学部における教職課程での学修について振り返り、まとめを行う。複雑化し単純な正解を見つけることが困難な社会において、教職の意義、児童・生徒への理解について4～5名の小集団によるディスカッションなどを通して理解を深める。また、自らの社会人としての自覚、人間関係能力についても授業を通して検討することで、大学卒業後のキャリア展望を行う契機とする。					
授業計画					
第1回：オリエンテーション（担当：甲原、吉岡、畔津、吉永、阿部）					
授業の目的と方法について知る					
第2回：教職課程をふり返る（担当：甲原、吉岡）					
履修カルテを元に個人思考及びディスカッションを通して4年間の教職課程でどのようなことを学んだのかふり返る。また教員として社会人として求められる資質、能力とは何か検討する。					
第3回：教職課程と自分の人生（担当：甲原、吉岡）					
履修カルテを元に個人思考及びディスカッションを通して、教育的愛情、責任感、使命感について検討し、自らの適性と社会人としての自覚について考える。					
第4回：教職課程と自分の人生（担当：甲原、吉岡）					
前回に引き続き、個人思考とディスカッションをとおして教職課程と自分の人生の関わりについて検討する。					
第5回：教育実習をふり返る（担当：甲原、吉岡）					
4 年生前期に行った教育実習が自分の4 年間の学士課程での学びにどのようなインパクトを与えたのか、今後の社会人としての活動（職業観、対人関係能力等）にどのような意義があるのかについて個人思考する。引き続き小集団（4～5名）を構成し、それぞれの経験を比較、参照することで自分にとって教育実習および教職課程がどのような意味を持つものであったのかの位置づけを行う。					
特に実習の前後で自分の何が変化したのかについて考察する。					

第6回：教職の意義について（担当：甲原、吉岡） 学校で学ぶ、教えるという行為が生徒にとってどのような意味があるのか、個人思考した上で、前回、構成した小集団においてディスカッションする。引き続き、教室内で各集団の意見を交換、共有する作業を通して、学校と社会の関わりについて考察する。 第7回：教科指導について1（担当：甲原、吉岡、畔津、吉永、阿部） 教育実習を振り返り、模擬授業を行う。この際、ICTの活用を含む。 第8回：教科指導について2（担当：甲原、吉岡、畔津、吉永、阿部） 前回に引き続き、模擬授業を行う。この際、ICTの活用を含む。 第9回：教科指導について3（担当：甲原、吉岡、畔津、吉永、阿部） 前回に引き続き、模擬授業を行う。この際、ICTの活用を含む。 第10回：教科指導について4（担当：甲原、吉岡、畔津、吉永、阿部） 前回に引き続き、模擬授業を行う。この際、ICTの活用を含む。 第11回：生徒指導について1（担当：甲原、吉岡） ロールプレイなどを活かし、生徒指導について探求する。加えて、なぜ「チーム学校」なのかを、学校内の連携のみならず、専門家、地域人材との連携の視点から検討する。 第12回：生徒指導について2（担当：甲原、吉岡） 前回に引き続き、生徒指導について探求する。 第13回：学級の経営について（担当：甲原、吉岡） ロールプレイなどを活かし、学級経営について探求する。学び合い、高め合うクラス、学校、地域づくりを目指す取り組みについて提案する。 第14回：教育と社会（担当：甲原、吉岡） これからの人生と教育について検討する。教育の社会的な意義を自己関連づけにより再考する。特に自らの大学での学びをふり返る中で、学士課程修了後の社会人としての自覚、資質について再考する。 第15回：まとめ（担当：甲原、吉岡、畔津、吉永、阿部） 自らの学校教育についてふり返るなかで、これからの人生と教育、学ぶことの意義について考える。また、今後の人生について展望する。
テキスト 特になし。
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』 『高等学校学習指導要領』
学生に対する評価 グループ活動への貢献（50%）、レポート等の評価（50%）を踏まえ、教員としての最小限必要な資質、能力が身に付いているか確認し、単位認定を行う。評価の規程については上記のとおりであるが、4年生後期の授業であるため、自分自身のこれまでの学校教育課程における学び、成長をふり返りつつ、今後の展望を行うことが必要である。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。